

発行

北海道ポーランド文化協会

〒006-0006

札幌市手稲区西宮の沢6条
1丁目16-1-210 佐光方

電話・FAX 011-215-6696
samitsu0204@gmail.com

POLE

第81号 2014.3.20
北海道ポーランド文化協会会誌

創立から26年
刻んだ足跡に
「文化功労賞」



「ポーランド文化功労章」 当協会が受章！



写真1 文化功労章授章式にて（左から）コザチェフスキ駐日大使、筆者、今村能氏、大竹洋子氏、佐藤忠男氏、ズドロイエフスキ文化・国家遺産大臣、上田美佐子氏、ロドピッチ前駐日大使、久山宏一氏

写真：マチェイ・コモロフスキ

去る2013年10月17日、ポーランド共和国より北海道ポーランド文化協会が団体として初めて「文化功労章」を受章しました。安藤会長の代理として大使館での授章式=写真1=に出席しましたので、概要を報告します。

授章式の前には、今春に日本で封切られるポーランドの巨匠アンジェイ・ワイダ監督による「ワレサ 連帯の男」の試写会がありました。上映前、私は最前列のポーランド大使と並んで着席する前外務大臣の中曽根弘文氏の隣の席に案内され少々戸惑いましたが、授章式のことなど全く念頭にはありませんでした。

上映が終わると、ポーランド共和国文化・国家遺産大臣のボグダン・ズドロイエフスキ氏およびコザチェフスキ駐日ポーランド大使が壇上に上がり、「これからポーランド文化功労章の授章式を執

行う」と宣言されました。改めて少々緊張気味に推移を見守っておりますと、簡単な主旨説明のあと、まずシアターX(カイ)の上田美佐子氏の名が呼ばれ、壇上で大臣が「文化功労章グロリア・アルティス」という金メダルを彼女の首にかけました。ついで、佐藤忠男氏(日本映画大学学長)、大竹洋子氏(東京国際女性映画祭実行委員)、今村能氏(国立音楽大学、ポーランド国立歌劇場・フィルハーモニア客演指揮者)の順で「文化功労章」の勳章がそれぞれの胸に留められました。

すると突然「北海道ポーランド文化協会」という司会者の声が聞こえ、正直まさかという驚きと、やっぱりという納得の感情が交錯する中、意を決して壇上へ向かいました。というのも、安藤会長からの出席要請のメールには、そのような儀式のことなど一切触れられていなかったからです。



写真2 勲章を胸に付けた筆者と「文化功労章
グロリア・アルティス」受章の上田美佐子氏。
写真右は勲章。

壇上で同じように功労章を胸に付けて頂くと、会場から大きな拍手を頂きました。最後に、久山宏一氏（ポーランド語翻訳・通訳者）が受章して、文化功労章の金メダルは個人1名、勲章は個人4名と1団体が受章したという次第です。

後ほどの授章理由の説明では、文化功労章はあくまでもポーランド文化の普及・交流に貢献した個人の功績を称えて授与するもので、団体に対して与えるのはこの制度始まって以来初めてということでした。授章理由としては「北海道ポーランド文化協会が25年を超える長きにわたり、ポーラン

ドと日本の文化交流に果たした役割と功績はとても大きく貴重である」という主旨が述べられました。

授章式の後、受章者と挨拶を交わし=写真2=、またいろいろな人からもお祝いの言葉を頂きました。式には前駐日大使のヤドヴィガ・ロドヴィッチ氏も出席されており、とても丁寧にお祝いの言葉を頂いたことを覚えております。

その後、11月17日にシアターX主宰による上田氏の「グロリア・アルティス」受章記念パーティーに招待され、その席で改めて上田氏に祝辞を述べる機会がありました。私と上田さんとは、4年ほど前に私の兄（副会長・霜田千代麿）を通じて接点ができ、兄からは、グロトフスキーが逝去されたときに、シアターXで開催された記念シンポジウムに上田さんからご招待を受けたことがきっかけと聞いています。その後、国立能楽堂におけるヤドヴィガ・ロドヴィッチさんの創作能上演の際、およびご自身で企画された関連イベントなどでも何度かお目にかかり今日に至っています。

以上、授章式の概要を報告させて頂きました。

霜田 英麿

（北海道ポーランド文化協会東京事務所）

巨匠アンジェイ・ワイダ監督最新作 『ワレサ 連帯の男』

—5月3日（土）よりシアターキノで公開—



ポーランド映画界の巨匠アンジェイ・ワイダ監督が「連帯」運動の英雄レフ・ワレサの生涯を描いた伝記映画が、昨年10月ポーランドで公開され大絶賛されました。この作品が早くも5月3日から札幌のシアターキノで上映されます。

私も一足早く鑑賞しました。原題は『希望の男 Wałęsa. Człowiek z nadziei』。ワイダの名作『大理石の男』（1976）、『鉄の男』（1981）に続く、三部作の最終章と呼ぶに相応しい素晴らしい作品です。

高等教育も受けていない造船所の電気技師ワレサが歴史的な事件に巻き込まれ、社会主義体制をひっくり返すことになるま



でを描いています。家族思いの父親であり、妻の愚痴に頭を悩ませる、どこにでもいる普通の男が怒り、悩み、そして勝利をつかむ道程が、丹念に描かれています。同時に、社会背景は当時のアーカイヴ映像をふんだんに取り込み、短いシーンをテンポよくつないで、良質のサスペンスのような非常にスリリングな効果を生み出しています。

ベテラン俳優たちの素晴らしい演技、腰の据わったカメラワークなど、ポーランド映画界の底力を思い知らされる傑作です。ポーランド映画ファンは今年、見逃せない一本です。ぜひご覧ください。

佐光 伸一

※詳しくは、同封のチラシをご参照ください。

2013年ヴェネチア国際映画祭パシネッティ賞／2013年シカゴ国際映画祭最優秀男優賞受賞
2013年トロント国際映画祭正式出品作品